

～五月晴れのなか、五・七・五で描かれた情景を堪能～
第24回黒羽芭蕉の里全国俳句大会



6月23日(日)、黒羽地内のホテルで開催されました。
 事前に募集していた自由題の部には、全国各地の639名から2,175句の応募があり、大会当日の席題の部にも177名が参加して投句。『蛩』『雹』『紫陽花』という席題のもと、参加した皆さんは、俳句づくりの腕前を競いながらも、俳句で表現されたさまざまな情景をたっぷり堪能していました。
 選者には、本市ゆかりの黒田杏子先生をはじめ各方面でご活躍中の5名の先生方をお招きして選句をしていただきました。
 また、東洋大学教授でありご自身も俳句を詠まれる谷地快一先生に、「旅は芭蕉に何をもたらしたか—『おくのほそ道』を軸にして—」と題したご講話をいただきました。
 今回受賞した作品と作者は次のとおりです。(推薦と特選のみ掲載、敬称略)

自由題の部

黒田 杏子 選

○推薦(栃木県知事賞)
 存分に生きたか蟬を拾ひけり

矢板市 五味しづ江

○特選

あまたなる独りひとりの鮎の川

世田谷区 平井あい子

くろばねの日暮悟りて木葉木菟

千葉県 三枝 青雲
 白樺の影は水色ほととぎす
 宇都宮市 手塚 康雄

星野 椿 選

○推薦(朝日新聞社賞)
 望郷や海市立ちたる橋高く

滋賀県 吉川 博文

○特選

千年の苔の花咲く雲巖寺

宇都宮市 塩田 良一
 誰もみぬ床几に梅の影遊ぶ
 矢板市 鈴木 文代

山菜萸の花咲きてより雨がちに
 千葉県 大久保文夫

橋本 榮治 選

○推薦(栃木県俳句作家協会会長賞)
 幾たびも流燈の子を押し戻し

埼玉県 益子さとし

○特選

惜春の灯をとびとびに仮設村

東京都 木下 蘇陽
 遠くまで母行く朧月夜かな
 東京都 清水 明子

戦前に及ぶ弔辞や沙羅の花

静岡市 高杉 光昭

○推薦(大田原市長賞)
 雲拙きて雲をかをらす柝の花

世田谷区 平井あい子

○特選

汝が植えて逝きし稲穂の重さかな

大田原市 手塚その子

吊り雛揺らして母をまた亡くす

大田原市 三橋 順子

山影のみどりゆたかに鮎遡上

横浜市 川原 京子

宋 岳人 選

○推薦(下野新聞社賞)
 捨聖ゆかりのやなぎ芽吹くころ

杉並区 依田 百合

吹割の滝を飲み込む巖かな

栃木市 野沢 明夫

黒潮に乗り出す構へ青岬

神奈川県 瓜田 国彦

星の名を当ててうれしき良夜かな

那須塩原市 馬場 弘光

席題の部

黒田 杏子 選

○推薦(栃木県知事賞)
 ほたる火や往診の父還り来る
 宇都宮市 半田 里子

○特選
 今日を生き蛩に逢ひて飯甘し
 日光市 細井 麦魚

星野 椿 選

○推薦(朝日新聞社賞)
 雹の玉まことに大き那須野かな

宇都宮市 大貫 瑞子

○特選

紫陽花や羅漢さんにも雨欲しき

那須町 菊池 緑

橋本 榮治 選

○推薦(栃木県俳句作家協会会長賞)
 三つ折にたたむ便箋蛩の夜

矢板市 横塚 敏子

○特選

ほうたるや肩書はずすことを決め

大田原市 井上 薫子

正木ゆう子 選

○推薦(大田原市長賞)
 今日を生き蛩に逢ひて飯甘し

日光市 細井 麦魚

○特選

椀ほどの雹に打たれし瓢かな

上三川町 谷田部シツイ

○推薦(下野新聞社賞)
 紫陽花や草鞋きりりと翁像

那珂川町 大高 松竹

○特選

螢狩ほたるを知らぬ子を連れて

宇都宮市 加茂都紀女

問
 黒羽芭蕉の里全国俳句大会事務局
 (文化振興課)
 TEL (98) 3768